

## 支部だより

### 統一ドイツの新首都に 外語会ベルリン支部発足

永井潤子 (D昭33)

ベルリンの壁崩壊から12年、ドイツ統一から11年、そしてベルリンへの首都移転から2年目の今年の夏、新首都ベルリンに小さな外語会支部が誕生した。今のところメンバーはわずか6人、それも男性2人に対し女性4人と女性優位の会だ。若い人が多い会でもある。とびきり“長老”の私は別格として、6人のうち3人が平成卒。在学中の人も1人いる。ほとんど全員が首都移転にともなってベルリンにきた人たちで、私を除く5人が日本大使館など政府関係の公的機関で働いているのも、ベルリンの現状を反映していて面白い。首都移転にともなってベルリンにやって来たのは、ドイツの政治家、連邦各省の公務員、各国の外交官やジャーナリスト、芸術家などで、企業はあまり進出していない。商社マンが一人もいない外語会も珍しい。

メンバーの中でもっとも風格があるのは、ドイツ語昭和41年卒の伊崎捷治氏、現在は日本貿易振興会、ジェットロ・ベルリン・センター所長として旧東ドイツ地域の産業の日本への輸出、同地域への日本からの投資などを担当している。ハンブルク、デュッセルドルフ、アトランタ駐在の後、1999年秋、首都移転直後のベルリンに赴任してきた。もう1人の男性は、ドイツ語平成2年卒の四ツ谷知昭氏、在独日本大使館勤務だが、もともとは国際交流基金の職員でベルリンへの首都移転を前に同基金から初めに在独日本大使館に派遣されたという。「ドイツにおける日本年」の多くのプロジェクトにかかわったほか、新装なった日本大使館のオープニングを兼ねた東山魁夷展、裏千家の若宗匠、千宗之氏を招いてのお茶室開きなど、文化行事の責任者として活躍している。

若い女性3人の勤務先も在独日本大使館だ。三等書記官の樋川和子さんは、ドイツ語平成7

年卒、久米前大使、野村現大使の秘書として活躍中、ドイツ語科在学中の三嶋裕香さんは、ドイツ留学の後2年間休学し、在独日本大使館で派遣生として働いている。変り種は中国語科平成7年卒の今掛美保さんで、留学先の南京でドイツ人男性と知り合い結婚、ドイツに住むようになったという。現在は日本大使館でアルバイトとして働かたわら、フンボルト大学で中国語にさらに磨きをかけている。私はドイツ語昭和33年卒、東京の日本短波放送で14年間働いた後、ケルンにあるドイツの国際放送、ドイチェ・ヴェレ日本語課の放送記者を65歳の定年までつとめた。首都移転後の2000年夏、28年間暮らしたケルンからベルリンに引っ越し、現在はフリージャーナリストとしてNHKラジオ深夜便のリポーターをつとめたり、雑誌に原稿を書いたりしている。

8月3日夜、中華レストランで開いた第1回の外語会ベルリン支部の集まりには特別会員として四ツ谷氏の夫人、四ツ谷亮子(旧姓一条D平2)さんとゲストとしてドイツ語平成3年卒の石川桂子さんが特別参加した。愛知県立大学助教授の四ツ谷夫人は夏休みに単身赴任の四ツ谷氏を訪ねたもの。在日ドイツ大使館勤務の石川さんは、ドイツ外務省の研修のためベルリンに滞在中。参加者は7人。この他にベルリンにお住まいの同窓の方、ご連絡を!

### ニューデリー支部より

小林玄一 (U昭52)

当地はすっかり様変わりしました。一番ありがたいのはカレー一色(一食)の世界から解放された事です。ニューデリーの銀座ともいえる Connaught Place にはマクドナルドが2軒開店し、「17ルピー・ハンバーグ(45円)」や「7ルピー・アイスクリーム(20円)」が飛ぶように売れ、我々のみならず、現地の中産階級(ホワイトカラー)の優越意識と胃袋を満たしています。西洋並みのコーヒースタンドも目を引くようになり、ジーンズにTシャツ(サリーではなく)の若いアベックがロング・グラスに

注がれたコーヒー（インド紅茶ではなく）を2本のストローで吸り合い、サングラス越しに見つめ合っては、サンドイッチをはおばっています。その後は、スズキの軽自動車ですらドライブに繰り出すのでしょうか。

建物は英国の統治時代の物なので、そこだけを見ると、ロンドンの一角と見まちがえてしまいそうです。極めつけは、昨年ニココホテルが和食レストランと共にオープンし、夢であった寿司と刺身が、高価ではありますが、お金さえ払えば冷酒とアサヒビールと共に食べられるようになったことです。

インドの国土は広大で欧州に匹敵します。南北で見ると、ヒマラヤ山麓のカシミール（流行りのパシュミナ・ショールの産地）→インド亜大陸の先端のコモリン岬はマドリッド→ワルシャワの距離に、東西で見ると、コルカタ（旧カルカッタ）→ムンバイ（旧ボンベイ）は、パリ→アルプス→アテネの距離に相当します。

このスケールで国内出張をこなしていますが、あまり苦ではなくなりました。航空業界の民営化により、10社程が凌ぎを削った結果、Jet Airways が生き残り、そのサービスは定刻通りの運行で定評があります。遅れると、遅れの説明と予想到着/出発時間がアナウンスされ、闇雲に待たされる、という不安感が無くなりました。

機内ではモデルと思いき美女が紺のスーツを着こなし、タイトなミディ・スカートからは紺のストッキングのおみ足が伸び眩しい程です。席に座ると、その美女から「コールド・タオル・サー」とライムの香りの冷えたタオルを手渡されます。灼熱の太陽に火照った頬にそれを当てると本当に心地よく、地獄に仏とは、正にこの事と思ってしまう。

しかし、これもインドのホンの一部。空港から一歩足を踏み出せば、汗ですえた汚いシャツを着たバサバサ髪の方が何人も駆け寄り、私の鞆をなんとかして取り上げ、迎えの車（国産 Ambassador はついに姿を消しつつあります）に積もうとします。運び賃のおねだりです。10ルピー（30円）も稼げばその日の食費は賄えます。人間の出来ていない私などは思わずヒンディー

語で「チャロー・コノヤロー（立ち去れ。この野郎）」と叫んでしまいます。停電、断水、暑さ、デング熱、と不快・不便さは依然として沢山あります。

産業界では、IT大国などと言われ、新卒技師でも一流のソフト会社に就職出来れば、役人の部長級の給与が約束されます。役人の賄賂根性が途絶えない原因の一つです。猫も杓子もIT技師を目指しており、インドの乏しい基本インフラの建設を担うべき機械、電気、建築などの技師が育っていない事が大いに懸念されます。

2割の中産階級以上の人々と8割の貧困層。我々が普段お仕事でお付き合いするのは、前者の2割ですが、人口10億人のインドでは2億人で、日本の人口よりも多いのです。その中で、下記の外語の方々が一割で奮闘されています。清好延（H昭39インド商工会議所連盟）、清水トシ子（A昭43大使館）、星崎真（U昭57日商岩井）、佐藤仁美（H昭63大使館）、新村恵美（Po平2主婦）、鈴木真弥（H平13ネルー大学留学生）、平井基義（H科学生）

9月5日に、インドをご訪問中の坂田貞二拓殖大学教授（H昭38）をお招きして懇親会を開き、皆で久しぶりに旧交と親睦を暖め合いました。日常から解放され、学生に戻れる本当に楽しいひと時でした。

## 香港支部より

福田真志（C平4）

去る7月20日、香港セントラルのチャイナ・ティー・クラブにて、今年度第1回の香港外語会を開催しました。

昭和18年卒の大先輩から平成10年の卒業生まで幅広い年齢層から、合計28名が参加しました。現在会員40名中21名が中国語学科卒という構成は香港ならではのようですが、出席者の学科は11語学科に及びました。香港を拠点に中国、東南アジアにおいて、金融、メーカー、商社、マスコミ等の様々な分野で活躍する同窓の皆さん。久々の再会に話は尽きませんでした。

最大の話題は、会長に安立功氏（C昭43）、

副会長に真鍋忠夫氏（C昭47）が満場一致で決まったことです。安立新会長を中心に一層結束力を増し、各方面で「攻め」の活動を展開できればと思っています。

## ロサンゼルス支部より

柴崎克美 (Im昭46)

当地外語会には30名余りの会員がおり、毎年2回親睦会を開いています。会員数も少ないことから夫妻での参加歓迎というのが特長で、今回は去る7月15日に21名の参加を得て、ロス・ニューオータニホテルのランチを楽しみながら和やかなひとときを過ごしました。

多彩な分野で活躍している同窓生と顔を合せ、近況を語り合うのは外語会ならではの楽しみです。

ロサンゼルスは駐在員の異動も多く名簿にもれている会員も多いと思われます。当地同窓生の方は

宮田会長 (shinya\_miyata@asatsuaamerica.com)、  
今回幹事の柴崎 (shibasakik@kajimausa.com)、  
次回幹事堀川照一氏 (teruhori3@yahoo.com)  
にご一報下さい。次回は来年2月の予定。

今回の出席者

妙中俊彦(D昭25)、黒木享(M昭35)、高柳貞夫(E昭36)、榎義昭(F昭40)、小林正子(R昭41)、宮田慎也(V昭45)、柴崎克美(Im昭46)、堀川照一(C昭50)、川口輝明(A昭51)、森壽久(A昭51)、森節子(A昭51)、浅野かおり(C昭60)、広瀬圭子(K昭63)、武藤祐二(Po平2)

## ウィーン支部より

高坂哲郎 (D平2)

長らく休眠状態にあったウィーン外語会が今年5月、約6年ぶりに活動を再開しました。かつては、歴史と音楽の都に暮らす同窓生の固い結束のもと、ウィーンの森でワイングラスを傾けながらの会合を頻繁に開催、世界各地の外語会の中でも屈指の活動ぶりを誇っていました。ところが、メンバーの帰国が相次いだため、95

年の会合を最後に休眠状態となっておりました。今年に入って、奥村和子 (E昭50) 氏が、日本人会会報を通じて呼びかけたところ、商社や銀行、大学、家庭などで奮闘中の計12名から反応があり、6月2日(土)夕に、日本料理屋「えん」で支部会を開催、深夜まで盛り上がりました。当地周辺にお住まいの卒業生の皆様からのご連絡を心よりお待ちしております。

連絡先 viennagaigokai@hotmail.com

## 在東京ウィーン外語会

柳下龍彦 (D昭38)

ウィーン外語会の復活のお知らせを聞いた直後に再開第1回の幹事を務めて頂いた、Puff 和子 (E昭50、旧姓 奥村) さんが休暇で一時帰国する、という連絡があり、帰国組が集まってウィーン外語会・東京支部?の初会合を7月27日に広尾の「喜長」で行いました。

集まったのは、大体90年代前半から半ばにかけてウィーンに駐在したOB5人(柳下D昭38、木村匡博D昭44、木村孝D昭49、杉本充邦D昭53、西野恭子D昭60)、それにゲストとしてお迎えしたウィーンの UNIDOで活躍中の Puff さんの6人でした。再開した、本家ウィーン外語会のサポート、受皿役をかねて、頻繁に集まろうと言う事になりました。

次回以降はウィーン外語会の名幹事だったD昭57の小倉正広やD昭56で現在オーストラリア在住の長谷川洋一の帰国(一時でも)を待って集まる予定。又、イタリア在住で日本でも最近第12回の出光賞受賞で大活躍中の指揮者・村中大祐(D平2)も異色?のメンバーです。F昭50の上岡卓が昨年1月に帰国後病を得て亡くなったのは大変残念な事です。ご冥福を祈ります。お声を掛けられなかった仲間の諸君もこれをご覧になったら、下記にご連絡ください:

柳下龍彦 TEL: 047-373-8079

E-mail: tyagishita@nifty.com

木村匡博 TEL: 0423-69-5032

E-mail: m\_kimura@kensetsu-kikin.or.jp